

## 関経連新体制始動



2007年5月28日、  
関経連は第45回定時総会・理事会を開催。  
第13代会長として  
下妻博・住友金属工業会長が選任されるとともに  
07年度事業計画などが承認され、  
今年度の活動が本格的にスタートすることとなった。

戦後最長の景気拡大を続ける日本、  
企業部門を中心に好調さを保つ関西経済。  
世界に目を転じれば市場統合を含めた  
新たな経済秩序の構築が模索されている。  
このような情勢のなか、関経連が果たすべき役割とは一。  
関経連の新体制および本年度の事業計画を紹介する。

## 関経連第45回定時総会



### 下妻会長 就任挨拶

ただ今、理事の皆さま方のご推挙により会長に選任されました下妻でございます。

関経連は昨年、記念すべき創立60周年を迎えました。この間、戦後の荒廃からの復興、高度経済成長から低成長、バブルの発生とその崩壊、失われた10年など、日本そして関西は幾多の困難に直面してまいりましたが、多くの先人、先輩の皆さま方は、その都度、格別なご努力、ご尽力によって、この難関を立派に乗り越えてこられました。

今、世界は稀に見る同時好況にあります。その一方で、核の脅威、地球環境問題、グローバルレベルのM&A、国・地方の膨大な財政赤字など、国内外とも依然として大きな課題が山積しております。

このような中、本日、関経連会長という大役を仰せつかり、その責任の重さに身の引き締まる思いをいたしております。浅学非才、微力ながら、先人の皆さま方が築いてこられました歴史と伝統を汚さないように、関西のため、ひいては日本、世界のため、誠心誠意、最大限の努力をいたす所存でございます。皆さま方の引き続きのご支援とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

前会長の秋山さんは、その在任中、経済の再生・発展、産業競争力強化のため、全身全霊を捧げてこられました。関空2期事業の推進とこの夏の第2滑走路供用開始、大阪駅北地区の開発促進や文化観光の振興、さらには分権改革の推進やアジア・欧米との国際交流など数多くの偉大なる業

績をあげられました。何よりも危機的な状況だった関西経済の再生に強いリーダーシップを発揮されました。今や、関西経済はわが国の景気拡大の原動力になっていると申しても過言ではありません。このような比類のない実績をあげられました秋山前会長に深く敬意と謝意を表するとともに、今後は当連合会の相談役として、大所高所よりご指導とご鞭撻を賜りますよう、引き続きよろしくお願い申し上げます。

ご高承の通り、政治、行政、経済などさまざまな分野において東京への一極集中が進んでおりますが、情報そのものも東京に偏在しております。この関西に情報が集まりにくいことが、関西からの情報発信力の弱さにつながっている面もあるのではないかと思います。この情報受発信力の弱さは、今後、関西においてさまざまな事業、政策提言などを推進していく上で、最も大きな障害になるのではないかと考えております。

私は、この関西の情報受発信力を強化していくことが、極めて重要なことではないかと考えております。そのため世界から人や事業や情報が関西にもっと集まる方策を考える、さらには集まった情報の付加価値を高める手立てを打ち、関西から、より価値の高い情報や技術、文化、政策などを発信し、それがまた内外の価値ある情報を集めさらなる発信を生むという好循環を形成していきたいと考えております。

その際、歴史的、地理的、経済的に結びつきの深いアジア地域との関係強化に資する何らかのインタラクティブなプログラムを検討していくことが必要ではないかと考えております。このことが長い目で見れば、世界・アジアと直結する関西、存在感のある関西、信頼され愛される関西の構築につながっていくことに役立つのではないかと、このような思いを強くいたしております。

もとより、企業経営上の課題への対応や政策提言、社会資本整備や産業振興、賑わいづくり、また投資・貿易促進や地球環境保全、国際交流・国際貢献など、関経連が担うことを期待されている

さまざまな課題にも積極的に取り組んでまいります。事業運営にあたっては、会員の皆さまのニーズ、地域社会やグローバル社会のニーズに応えることに全力を尽くす所存であります。その際には、他の経済団体との連携、分担なども必要不可欠でありますので、ご関係の皆さま方には、格段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、目標と責任の所在を明確化し、軽重と時間軸を決める、加えて関経連本来のスタンスである側面支援・環境整備・自立支援という考え方を基本に活動してまいりたいと思っておりますが、皆さまとともに、関経連のミッション、使命、役割は何であるか、関経連のポリシー、基本方針は何であるかについて、もう一度議論していきたいと考えております。

幸い、卓越した見識と行動力をお持ちの12人の副会長の方々、また10の委員会の委員長、部会長、副委員長、さらには統括委員の皆さま方にご協力をいただけることになりました。この統括委員の方々をはじめ多くの会員の皆さま、関連団体

等のご関係の皆さま方には、この関西経済連合会のあり方についてご一緒に考え、また支え、汗をかいていただきたいと思っております。この皆さま方のお力を十二分に発揮していただけるように、そして関経連として総合力が遺憾なく発揮できるように全力を傾けていきたいと考えております。

関経連の創立趣旨に「産業人の常に緊密なる連携を通じた、産業人の自由なる創意と活発なる活動を促進する総合研究機関として設立する」という主意のくだりがあります。

これは先ほど申し上げました関経連のミッション、ポリシーの正に根本であり、現在でも私たちをしっかり導いてくれるもの、私たちが肝に銘じなければならぬことであります。今一度、この原点を思い起こし、皆さま方と一緒に、関経連発展のため粉骨砕身、力の限り尽くすことを改めて皆さまの前でお誓い申し上げ、簡単措辞ではありますが、就任の挨拶とさせていただきます。

## 秋山会長 退任挨拶

本日をもって会長を退任いたします。

副会長をはじめ会員の皆さま、職員の皆さま、それに報道関係の皆さまのご尽力によってなんとか8年間職務を全うすることができました。あらためて心から御礼申し上げます。

さて、私事で誠に申し訳ございませんが、私はNHK大河ドラマ「風林火山」の舞台になっております「甲斐」で生まれ育ち、学生時代を東京で過ごしました。「人間いたるところに青山あり」という気概をもちまして関西にやってきたのが50年前になります。そして関西で暮らすうちに、大阪は実に自由で新鮮な空気が満ち、生き生きとした本音で語れる街であるということを実感してまいりました。今では、文字通り「好きやねん大阪」の気持ちにどっぷりと浸っているような日々でございます。

また本来、関西の人々は井原西鶴が言っていますように「どん底に落ち込んでもたくましく明るく生き抜くものだ」というふう信じておりました。ところが、私が関経連会長に就任いたしました1999年ごろには、産業空洞化が厳しく、設備投資額で見ますと全国が90年代初頭より4割以上増えているのに対し、関西は3割以上落ち込んでいるという大変ひどい落ち込みようでした。

数々の歴史・文化と世界をリードするに足るような輝かしい技術・産業を持つ関西が何故このように意気消沈しているのか、私の関経連の仕事の第一歩は、その要因を突き止め、経済を再生することでありました。そして、その原因は極めて簡単で、「浮利を追わず」と言う関西の商道德の原点を忘れ、大量生産に走り、一時的な利益を求めて海外に進出したということにほかなりません。したがって、もう一度マザーランドの良さを見直し、独自の文

化・伝統をバックボーンに他の追随を許さないような製品づくりあるいは経営モデルを構築することが、関経連の責務として強く求められました。

そのため、伝統文化を掘り起こしたり、関西をマザーランドとする中堅企業を大事に育成し、先端産業や異業種による融合型イノベーションなどを促進してまいりました。さらに魅力ある都市づくりを進めるなど、その時々求められる施策について、地道に一つひとつ取り組んでまいりました結果、今では工場立地件数を見ましても全国を上回り、関西経済は本格的な回復基調が定着しつつあります。

みなさんご存じのように「老人の自慢話ほど聞き苦しいものはない」と言われておりますが、幸い私自身、自慢話をする年齢になるまでに会長を辞めることができました。

関経連は本日より下妻新会長のもと、8人のベテランの副会長に新たに4人の新進気鋭の副会長が加わっていただき、まさに黄金時代を迎えようとしています。かつてGEのウエルチ前会長は退任に際し、「時代の変化を脅威としてではなく、常にチャンスの源泉としてとらえよう」と訴えられました。下妻体制のもと、これからの激動の時代をチャンスとしてとらえ、関西の躍進に向けて精力的に活動していただくようお願いしたいと思います。

最後にもう一度、これまでご支援賜りました会員の皆さま、事務局の皆さま、報道関係の皆さまに重ねて感謝申し上げますとともに、関経連のますますの発展を祈念いたしまして、辞任の挨拶とさせていただきます。長年ありがとうございました。



# 2007~2008年度の事業推進体制が決定 ~副会長、委員会編成、事務局体制~

役員改選期である今年の総会・理事会では副会長および事務局役員の選任も行われた。今回選任された副会長は12名。うち再任は8名、山口昌紀・近畿日本鉄道社長、森詳介・関西電力社長、森下俊三・西日本電信電話社長、松下正幸・松下電器産業副会長の4名は新任。

また、委員会も新たな2年間の活動をスタートするべく再編が行われ、新委員長・部会長・副委員長が決定した。

日本・関西が直面する重要課題について検討するためテーマごとに設置され、有識者や政策担当者などとの懇談や討議、委員相互の意見交換や調査研究、意見書の取りまとめなどを行う委員会活動は関経連の活動の基本。全委員会を統括する統括委員会を含めた11委員会と、特に重要なテーマについてより深く専門的な検討を行うため委員会の下に設けられる9部会を中心に事業を進めていく。

## ●副会長

氏名	担当委員会
立石 義雄 (オムロン会長)	産業・科学技術委員会 国土・基盤整備委員会
宇野 郁夫 (日本生命保険会長)	企業経営委員会
井上 礼之 (ダイキン工業会長兼CEO)	国際委員会
津村 準二 (東洋紡績会長)	情報通信委員会
水越 浩士 (神戸製鋼所会長)	地球環境・エネルギー委員会
奥田 務 (大丸会長兼CEO)	地方分権委員会
寺田 千代乃 (アートコーポレーション社長)	文化・観光委員会
玉越 良介 (三菱UFJフィナンシャル・グループ会長)	経済財政委員会
山口 昌紀 (近畿日本鉄道社長)	国土・基盤整備委員会
森 詳介 (関西電力社長)	都市再生委員会
森下 俊三 (西日本電信電話社長)	情報通信委員会
松下 正幸 (松下電器産業副会長)	国際委員会

## ●委員会一覧

(◎は委員長、○は部会長、△は副委員長)

委員会とその所管事項	委員長・部会長・副委員長
<b>統括委員会</b> 各委員会の重要事項の報告、調整等	◎下妻 博 (関西経済連合会会長)
<b>経済財政委員会</b> 【税制部会／社会保障部会／金融・資本市場部会】 財政金融政策・税制改革・社会保障制度改革の総合的検討	◎松本 正義 (住友電気工業社長) ○川上 徹也 (松下電器産業副社長)*税制部会長 ○中村 昇 (京セラ会長)*社会保障部会長 ○松本 学 (野村證券専務執行役大阪駐在)*金融・資本市場部会長 △中野健二郎 (三井住友銀行副頭取)
<b>企業経営委員会</b> 【人材開発・中堅企業部会】 企業価値の向上、規制改革、経済法制、競争政策、知的財産戦略、CSRの推進、次代を担う人材の育成、中堅企業の成長発展など、企業の競争力強化のための環境整備方策の検討	◎和田 勇 (積水ハウス社長) ○牧野 明次 (岩谷産業社長)*人材開発・中堅企業部会長 △佐藤 廣士 (神戸製鋼所副社長) △小谷 茂雄 (ゲンゼ会長)*知財担当 △横山 進一 (住友生命保険社長) △伊藤 幹生 (松下電器産業取締役) △上田 雄介 (住友化学常務執行役員)*経済法規担当

<p><b>地方分権委員会</b> 〔広域連携部会〕</p> <p>関西広域連合の早期設置、分権型道州制の実現、自治体の行財政改革の検討、関西広域連携の推進</p>	<p>◎村上 仁志 (住友信託銀行特別顧問) ○錢高 一善 (銭高組会長兼社長)*広域連携部会長 △横内 誠三 (栗本鐵工所社長) △田中 宰 (阪神高速道路会長)</p>
<p><b>産業・科学技術委員会</b></p> <p>産業・科学技術政策、ロボット・バイオなど先端技術の融合・クラスター連携による新事業・新産業創出(けいはんな新産業創出・交流センターの活動支援を含む)、次世代環境技術やコンテンツなど新たな産業分野の開拓、大阪駅北地区ナレッジ・キャピタルの具体化支援、既存産業の競争力強化</p>	<p>◎町田 勝彦 (シャープ会長) △服部 盛隆 (池田銀行頭取) △北澤 清 (武田薬品工業常務取締役) △箕浦 輝幸 (ダイハツ工業社長) △奥山 俊一 (日本総合研究所会長) △松崎 昭 (川崎重工工業副社長) △山下 牧 (オムロン専務取締役) △原 直史 (ソニーコーポレート・エグゼクティブSVP関西担当)</p>
<p><b>情報通信委員会</b> 〔関西IT推進部会〕</p> <p>情報通信政策、関西におけるIT利用促進、ユビキタスネット、ロボット技術等を活用した「北梅田ロボット×ユビキタスシティ構想」の実現に向けた方策の検討</p>	<p>◎森下 俊三 (西日本電信電話社長) ○齊藤 紀彦 (関西電力副社長)*関西IT推進部会長 △橋本 安雄 (関電プラント会長) △櫛木 好明 (松下電器産業シニアフェロー) △有村 正意 (エヌ・ティ・ティ・ドコモ関西社長)</p>
<p><b>地球環境・エネルギー委員会</b></p> <p>実効ある地球温暖化防止対策など、地球環境・資源エネルギーに関する総合的方策の検討</p>	<p>◎石川 博志 (関西電力相談役) △矢嶋 英敏 (島津製作所会長) △幡掛 大輔 (クボタ社長) △古川 実 (日立造船社長) △片山 善朗 (三菱商事常務執行役員関西支社長)</p>
<p><b>都市再生委員会</b></p> <p>京阪神都心部を中心とする都市再生(大阪駅北地区および周辺地域の魅力的なまちづくりの推進、美しい都市景観の形成、花と緑・光と水のまちづくり)</p>	<p>◎竹中 統一 (竹中工務店社長) △佐藤 茂雄 (京阪電気鉄道社長) △安藤 力 (住友金属工業副社長) △坂井 信也 (阪神電気鉄道社長)</p>
<p><b>国土・基盤整備委員会</b> 〔関空・ベイエリア部会/学研都市部会/物流部会〕</p> <p>関西における国土基盤整備(関西国際空港・大阪湾ベイエリア開発・関西文化学術研究都市)、陸海空の総合的な物流戦略の推進、国土形成計画策定への対応</p>	<p>◎大林 剛郎 (大林組会長) ○芝野 博文 (大阪ガス社長)*関空・ベイエリア部会長 ○小林 哲也 (近畿日本鉄道専務取締役)*学研都市部会長 ○安部 正一 (住友倉庫社長)*物流部会長 △西口 廣宗 (南都銀行頭取) △山中 諄 (南海電気鉄道社長)</p>
<p><b>文化・観光委員会</b></p> <p>文化芸術、集客観光の振興方策の検討と推進(関西元気文化圏の推進、上方伝統芸能支援、劇場文化・ミュージアムネットワークの活性化支援、観光インバウンドの推進、歴史街道計画の支援)</p>	<p>◎山下 和彦 (大阪国際会議場顧問) △岡澤 元大 (大阪国際空港ターミナル会長) △鳥井 信吾 (サントリー副社長) △鈴木 孝三 (JTB西日本社長) △小嶋 淳司 (がんこフードサービス会長) △角 和夫 (阪急電鉄社長)</p>
<p><b>国際委員会</b></p> <p>東アジア自由経済圏の形成に向けたわが国通商政策と関西の対応に関する検討、中国・アセアンなどアジア諸国とのグローバルな交流・連携の推進、外国企業の関西誘致の推進</p>	<p>◎松下 正幸 (松下電器産業副会長) ◎田嶋 英雄 (コニカミルタホールディングス名誉顧問)*交流担当 ◎佐治 信忠 (サントリー会長兼社長)*交流担当 ◎松尾 博人 (クラレ相談役)*交流担当 ◎大坪 清 (レンゴー社長)*交流担当 ◎岡野 幸義 (ダイキン工業社長兼COO)*交流担当 ◎高島 成光 (共英製鋼会長兼CEO)*交流担当 △足立 哲 (丸紅執行役員大阪支社長) △高野 彰允 (三洋電機常任顧問) △森本 洋司 (住友商事取締役常務執行役員関西ブロック長) △中村 康二 (三井物産常務執行役員関西支社長) △藤野 達夫 (伊藤忠商事常務執行役員関西担当役員)</p>

●事務局体制

(○は新任)

○専務理事	奥田 真弥	理事・事務局次長	田辺 貞夫
常務理事・事務局長	青柳 明雄	理事	栗山 和郎
○常務理事	竹内 剛志	○理事	櫻内 亮久
		○理事	山川 薫

# 地域競争力強化と アジア経済発展への積極的な貢献 ～2007年度事業計画～

今年度、関経連は「地域競争力強化とアジア経済発展への積極的な貢献」を基本方針とし、以下の4テーマを柱に事業活動を展開。事業実施にあたっては、①短期・中期・長期の時間軸、②選択と集中、③会員の満足度向上、④社会の関心と理解の促進、⑤新規会員の確保を重視する。

## I. 関西・アジアゲートウェイの構築による 共生と発展

陸海空による国際物流・交通ネットワークの強化やアジア諸国との間に築いてきた人的ネットワークの強化拡大を進めることで、関西・アジアゲートウェイの構築をめざす。人やモノ、技術などのビジネス交流や企業進出・企業誘致の促進を通じ、アジアの成長ダイナミズムを域内に取り込むとともに、グローバル化するアジア経済の発展を先導する。

<重点事業>

1. 関空の機能強化とそれを活用した国際物流インフラの整備
2. 中国・ベトナムなどアジア諸国とのビジネス交流の拡大
3. グローバル化するアジア経済の先導

## II. コンテンツなど新産業創出と クラスター連携の強化

ロボット、IT、バイオなど先端技術の幅広い産業分野への波及やコンテンツ、環境、教育など新規分野の開拓を進めることで、新産業の創出をめざす。けいはんな学研都市や北梅田ナレッジ・キャピタルを広域的なクラスター連携や幅広い産学連携の拠点とすることで、製品やサービスなど事業開発や社会実証実験を推進し、新産業の担い手である企業の誘致を促進する。

<重点事業>

1. イノベーションの融合による新たな都市型産業の育成

2. けいはんな学研都市の強みを生かした産業化の促進

## III. 人や企業の交流の舞台となる 賑わいある都市づくり

国内外から人や企業が集い交流し、新たな文化や賑わいを生み出す舞台となるような魅力ある都市の創造をめざす。伝統芸能をはじめ関西の多彩な文化の継承発展や観光インバウンドの促進などに取り組むとともに、関西全体の活性化の観点から北梅田の統一的なまちづくりを起点として、広く大阪都心部のランドデザインを提案する。

<重点事業>

1. 世界に向けた関西の顔となる大梅田ランドデザインの提案
2. 多彩な関西文化の継承・発展による都市の魅力づくり

## IV. 地域や企業の自律的發展を促す 環境整備

国や地方自治体への政策提言や経済界の自主的行動により、地域や企業の自律的發展を促す環境整備をめざす。地方分権や税財政改革等の国と地方の枠組みの見直しや広域的な視点に立った国土形成計画の策定などに対する提言を行うとともに、幅広い視点に立った企業価値向上などに関する経営者の交流の場を構築する。

<重点事業>

1. 西日本経済界との連携による国土形成計画への政策提言
2. 関西広域連合の早期設置と道州制実現に向けた政策提言
3. 国や地方の抜本的な税制・財政改革に関する政策提言
4. 企業価値向上のためのネットワーク形成

## 2007年度事業の全体像

### 基本方針

#### 『地域競争力強化とアジア経済発展への積極的な貢献』



### 交流連携・情報発信

IからIVの各事業の実効性を高めるため、関西や他地域の経済団体、自治体、大学、国の出先機関、外国関係機関等との交流・連携をはかる。会員ニーズの活動への反映や積極的な情報提供等を通

じた満足度の向上とともに、タイムリーな意見表明や広報活動により、社会の関心と理解を深める。

詳細は、関関連ホームページの2007年度事業計画をご参照ください。